



TOHOKU GAKUIN  
UNIVERSITY

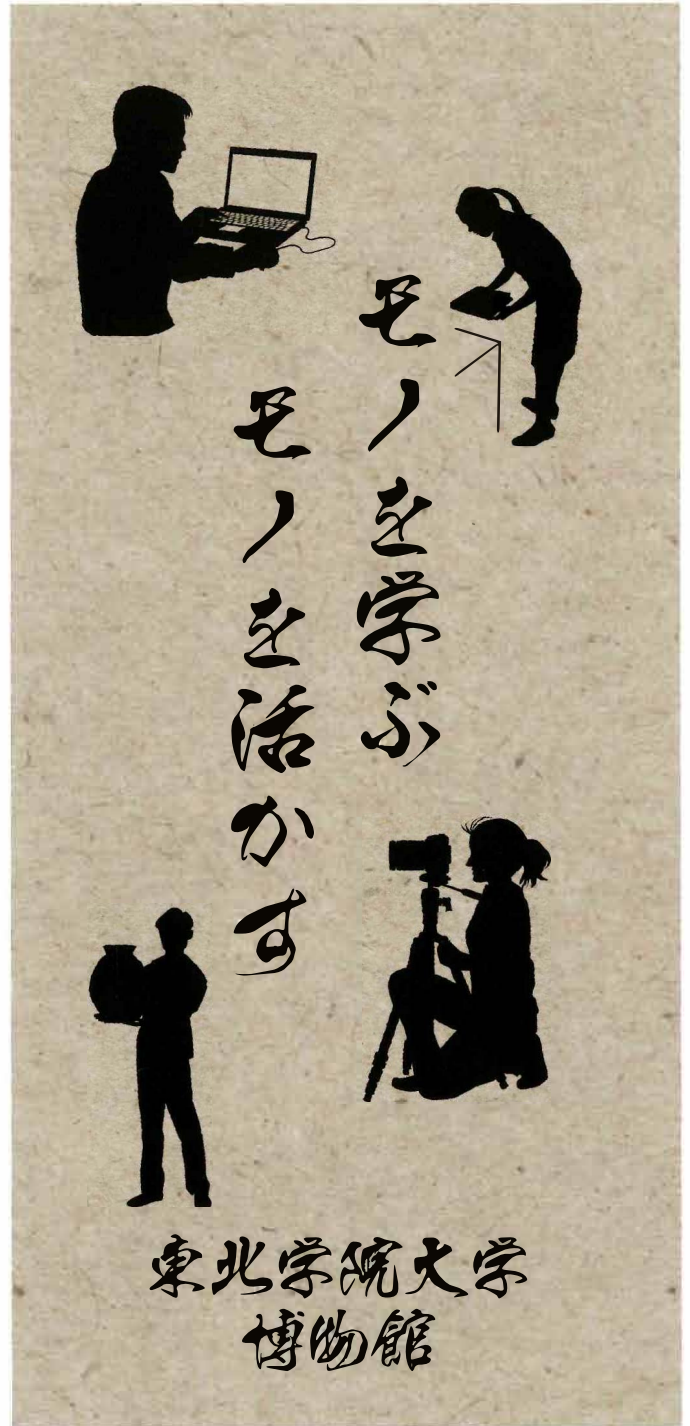
東北学院大学

# 博物館年報

平成29年度

## 2017

vol.9



## 展示 EXHIBITION

### 2017年の活動概要

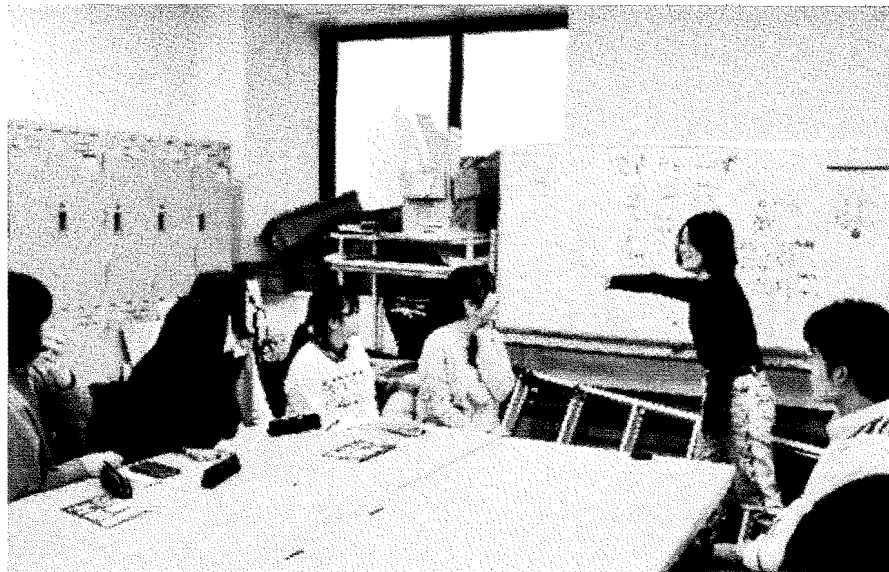
今年度の展示は、文学部学生を対象とした博物館学芸員資格課程の「博物館実習Ⅰ（学内実習）」の一環で、展示室全体の二分の一面積を使った企画展「勝平得之の民俗版画と雪の民具」(2017年11月25日～2018年3月31日)を実施した。この展示は、館蔵資料の箱ざりと雪の民具、勝平得之の民俗版画作品、郷土玩具、仙台鉄道局発行パンフや絵はがき資料等を使って、戦前の東北の観光開発と東北イメージを解説する内容である。実習では、前年度に実習用教材として購入した勝平得之の絵はがき資料の資料整理と台帳整備、写真撮影を行い、展示を学生たちが企画して実施した。

また、歴史学科考古学分野の辻秀人ゼミナールの発掘調査の速報展示、歴史学分野の菊池慶子ゼミナールの古文書読解の内容をもとにした展示、博物館実習Ⅰの墨書人面土器の魅力再発見のための普及企画「イケドキ♡」展をそれぞれ企画し、常設展示の展示替えを

行った。

「博物館実習Ⅱ（実務実習）」の一環では、館蔵実習ミニ企画展を企画し博物館実習生が企画して実施した。

牡鹿半島・思い出広場実行委員会「復興・創生期間における津波被災地での文化創造活動事業」(文化庁補助金・地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)を受託し、企画展「インディ・ジョーンズ、鮎川を往く」(2017年7月7日～8月7日 石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館)、特別展「描かれた神体島」(2017年8月9日～15日 石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館・2018年8月19日～9月28日 東北学院大学博物館)、企画展「おしかぐらし」(2017年11月15日～12月25日 石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館)、企画展「Oh, Aikawa! 博物学者アンドリュースがみた「鮎川」」(2018年1月26日～3月26日 石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」2階展示スペース)



博物館の実習室で展示の企画をする

企画展「勝平得之展出展の作品」(東北学院大学博物館所蔵)



特別展「描かれた神体島」(2017年8月9日~15日 石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館・2018年8月19日~9月28日 東北学院大学博物館)

# 描かれた 神体島

文化財  
レスキュー  
企画展

— 日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」 —



撮影：鹿井博介

入場無料

期間 2017年  
8月9日(水) ▶ 15日(火)  
午前9時~午後5時

場所 石巻市復興まちづくり情報交流館・  
牡鹿館(復興商店街・おしかのれん街向かい)  
〒986-2523 石巻市鮎川浜渡川65番地 Tel.0225-98-9950  
主催 牡鹿半島・思い出広場実行委員会  
(東北学院大学博物館内)



期間 2017年  
8月19日(土)  
9月28日(木)  
午前9時30分~午後5時  
場所 東北学院大学博物館



問合せ先 東北学院大学博物館 仙台市青葉区土樋一丁目3-1 Tel.022-264-6920

文化庁「文化財レスキュー事業」特別展「神体島」(東北学院大学博物館)

# 企画展「Oh, Aikawa! 博物学者アンドリュースがみた「鮎川」」

(2018年1月26日～3月26日 石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」2階展示スペース)

東北学院大学文学部歴史学科の大学生によるミニ企画展

## Oh, Aikawa!

博物学者アンドリュースがみた「鮎川」



鮎川で撮影中のアンドリュース  
(アメリカ自然史博物館所蔵・2192)

三陸の近代捕鯨の仕じまりの時代に鮎川を訪れたアメリカ人が撮影した写真から、100年前の牡鹿半島のようすを紹介します。

2018年1月26日(金)～3月26日(月)

場所:石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」2階展示スペース

## Oh, Aikawa

—博物学者アンドリュースがみた「鮎川」—



アンドリュース著『鯨の狩猟』  
(宝島社、1949年)

ロイ・チャップマン・アンドリュース(1884～1960)は、アメリカ合衆国の著名な探検家・古生物学者です。本国では、子ども向けの科学読みものや探検記の著者として知られ、その活躍からハリウッド映画『インディ・ジョーンズ』シリーズの主演、インディアナ・ジョーンズのモデルとも言われています。

彼は、日本と朝鮮半島で鯨類の調査を行いました。その後、中央アジア探検隊を率いて、ゴビ砂漠で恐竜の卵を発見し、その探検記である『蒙古狩猟行』は日本でも昭和16年に翻訳出版されています。

調査の過程で撮影した写真の原版は、ニューヨークのアメリカ自然史博物館に収蔵されています。



鮎川で撮影中のアンドリュース(アメリカ自然史博物館所蔵・2192)

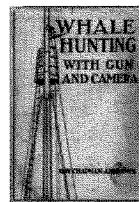


1916年の鮎川の風景(アメリカ自然史博物館所蔵・2687・2689・2755を合成して作成)

## Oh, Aikawa!

博物学者アンドリュースがみた「鮎川」

期間:2018年1月26日(金)～3月26日(月)  
場所:石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」2階



『Whale Hunting With Gun And Camera』の表紙(1916年発行)

いまから100年前、アメリカ自然史博物館の博物学者ロイ・チャップマン・アンドリュースは、研究のために牡鹿半島の捕鯨基地「鮎川」に滞在しました。あのインディ・ジョーンズのモデルのひとりとなった人物です。

当時の東洋捕鯨株式会社鮎川事業所は、世界でも最先端の設備をもっていました。アンドリュースは、鯨類の標本採取や解剖作業の調査だけでなく、風景や人々のくらしも写真で記録しました。450枚をこえる100年前の写真は、明治三陸津波と昭和三陸津波の間の時期の、貴重な記録となっています。

アンドリュースは、『船とカメラで鯨を捕う』という探検記を出版し、「鮎川」を「Aikawa」と表記し、多くのページを割いて愛情をもって著しました。「Aikawa」は、石巻地方の読みに近いのではないのでしょうか。

東北学院大学では、写真データの提供を受け、学生たちの手によって調査研究と整理作業を行いました。石巻市復興まちづくり情報交流館・社産館での展示では、地域のみならず、関心を持って、当時の風俗や捕鯨の状況について理解を深めました。

その成果は、東北学院大学論集『歴史と文化』第55号に掲載され、今回の展示はそれをもとにした展示です。学術的な視点と、学生ならではの目線とを織り交ぜて、この写真資料の面白さを感じていただける内容となっています。

アンドリュースがみた、100年前の牡鹿半島の人々の姿から、三陸の海とのかかわりと活気ある暮らしに思いを馳せていただければ幸いです。

東北学院大学 博物館



ゴビ砂漠で写真を撮るアンドリュース

## 講座 WORKSHOP

### 仙台・宮城ミュージアムアライアンスとの関連

#### SMMA見験楽学ツアー「向山から読み解く“仙台”」

2018年5月28日実施 大学博物館から愛宕神社周辺

この町歩きイベントは戦前の絵葉書で描かれていた仙台の風景と実際の今の仙台の風景とを見比べながら読み解き、ワークショップを通しそれを目に見える形にする企画であった。学芸員課程を履修している学生が企画・準備をし、そして当日の運営も行った。

ツアー当日は、午後1時に東北学院大学博物館を出発し仙台市のシンボルでもある広瀬川に架かる愛宕大橋を渡り愛宕神社へと向かった。階段を登り終えると

木々に囲まれた境内に到着し、学生から霊屋橋、仙台高等裁判所、東北学院大学旧宣教師館、東北学院大学本館の解説があり、それを補う形で参加者の方がさらに当時の出来事や実体験を含め話していただくなど雰囲気づくりをした。その後、東北学院大学博物館に戻り、絵葉書に書かれた風景と愛宕神社から見た風景を元に参加者一人一人の思い出を旗として立てるワークショップを行った。



## 「ミュージアム・ユニバース2017」

2017年12月17・18日、せんだいメディアテークにて仙台・宮城ミュージアムアライアンス主催「ミュージアム・ユニバース2017」が開催され、東北学院大学博物館は12月18日に展出した。

「体験の広場」には博物館実習Ⅰの履修学生が「ASOBIの達人 ビヨンド」として、子どもたちを楽しんでもらえるような昔の遊びの体験メニューを企画し

た。内容は、古代中国の遊び「投壺」をアレンジした「投壺うおーず」で、子どもたちが趣向を凝らした矢を作成して競い合うというものであった。

「トークとイベントの広場」では、民俗学実習の履修学生による「日本画家・平山郁夫が描いた東北」を企画し、晩年の平山郁夫が取り組んだ「奥の細道」シリーズと東北の聖地を紹介した。

**SAMA**  
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

仙台のさまざまな  
ミュージアムが大集合！  
もっと楽しく、  
もっと学べる2日間です。

# ミュージアム ユニバース

すてき・ふしぎ・おもしろい

- トークとイベントの広場
- 体験の広場
- 展示の広場
- ミュージアムグッズショップ

12.16 [土] 10:00-17:00 17 [日] 10:00-16:00  
せんだいメディアテーク 1階 オープンスクエア 入場無料

15日(金) 19:00-20:30は  
プレミアム  
ナイトークを  
開催!

【会場アクセス】  
徒歩/仙台駅より約20分  
地下鉄/青葉線仙台公園駅下車、「公園2」出口から徒歩6分、東海線大町南公園駅下車、「東1」出口または「西1」出口から徒歩13分  
バス/仙台市バス、仙台駅前60番(仙台駅ビル前・地下鉄仙台駅中央2、出口前)のりばから  
「東海寺通市役所前和礼西交通系大宮駅前」行きで約10分、メディアテーク前下車  
【主催】仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SAMA)  
【お問い合わせ】仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局  
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL.022-713-4483



# 印刷物 PUBLICATION

## 収蔵資料図録『コレミテ VOL.3』の作成

今年度は第3号となる収蔵資料図録『コレミテ VOL. 3』を作成した。この収蔵資料図録は、単なる目録や図録ではなく、資料紹介や見どころなどを解説するものとしてシリーズ化している。タイトルの『コレミ

テ』は、考古学、歴史学、民俗学、展示のそれぞれ頭の一字をとった。『コレミテ VOL. 3』は、勝平得之資料を掲載した。





## 平山郁夫のまなざし ―東北の“郁夫ポイント”をたどる―

佐藤麻南（学芸研究員）

2017年夏、宮城県東部に位置する牡鹿半島鮎川浜で企画展「描かれた神体島-日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝暁」展を開催した。約20年前、「奥の細道シリーズ」の一つとして平山画伯は鮎川浜、金華山にスケッチ旅行に訪れ、金華山から昇る朝陽を描いた。この企画展では平山郁夫美術館から作品、平山郁夫シルクロード美術館からスケッチブックをお借りして展示を行った。



企画展図録

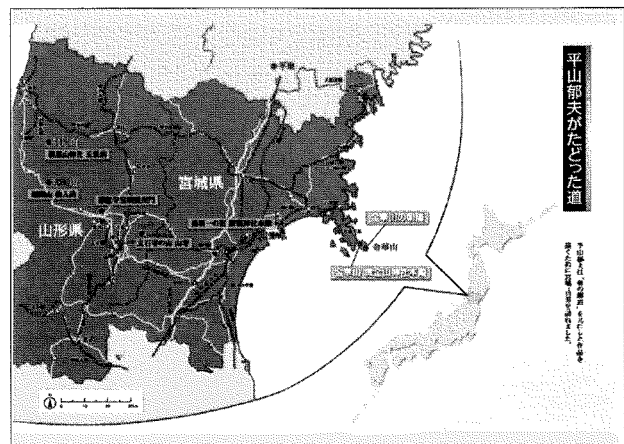


瀬戸内海・しまなみ街道にある“郁夫ポイント”

“郁夫ポイント”をたどるきっかけとなったのは、平山郁夫美術館のある瀬戸内海のしまなみ街道に、平山郁夫画伯がスケッチをしたポイントごとに石板が設置されていたことである。この石板をたどることで平山画伯がスケッチした場所をまわられるようになっていく。このようなことから平山画伯がスケッチした場所のことを“郁夫ポイント”と名付け、実際にその場所を訪れることで、平山郁夫のまなざしから作品の意図を探ることができるのではないかと考えた。

「奥の細道」シリーズで平山画伯は宮城県と山形県をめぐる。山形県山形市宝珠山立石寺、通称山寺に始まり、寒河江市にある慈恩寺、鶴岡市湯殿山、そして羽黒山、宮城県塩釜市にある鹽竈神社、最後に宮城県石巻市の金華山を訪れている。

ここからは約20年前、平山画伯がたどった順番で“郁夫ポイント”の紹介をしていきたいと思う。



平山画伯が「奥の細道」シリーズでスケッチをした場所

## 立石寺の山 山寺 一山形県山形市一

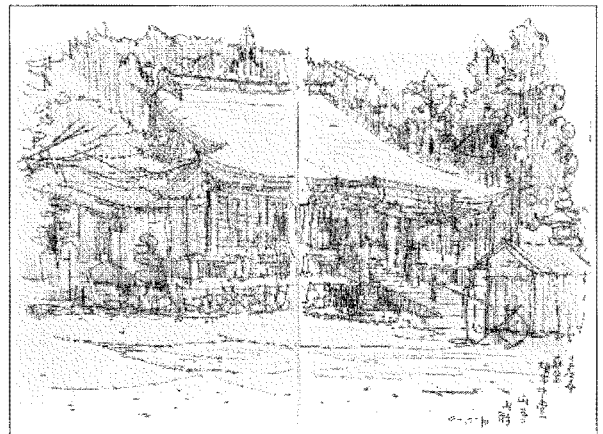
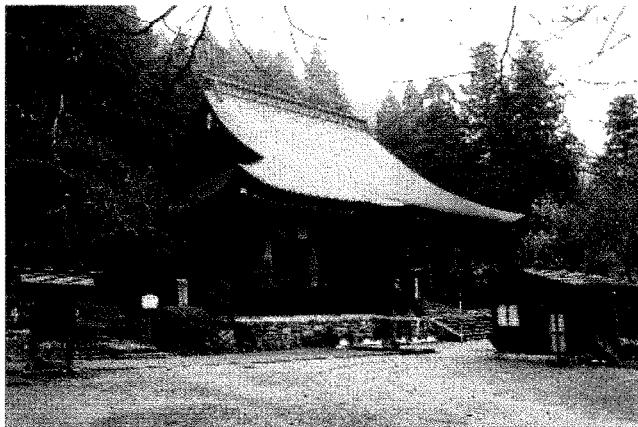
宝珠山立石寺、通称山寺と呼ばれるこの場所は、天台宗に属し貞観2（860）年、慈覚大師が清和天皇の勅命をうけて建立した。山寺内特有の凝灰岩の岩肌には供養碑が刻まれ、各所には洞窟、岩かげには多数の木製小型五輪塔、こけら経、笹塔婆、千体物、小型板碑などが納められており、古くから庶民信仰の山、先祖供養の山として栄え、この地方の多くの信仰を集めた。



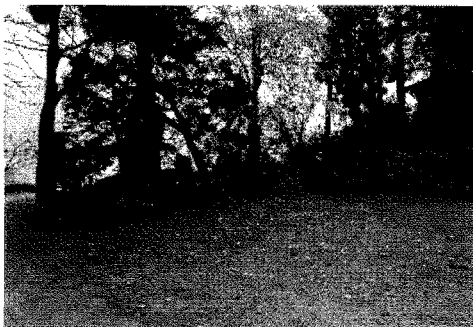
山寺の風景

平山画伯はこの地に平成8（1996）年10月10日に訪れている。ふもとの根本中堂から奥之院までは1000段以上ある階段を上らなければならない。そんな山寺でまず最初に描いたのは「根本中堂」である。国宝にも指定されている根本中堂は立石寺という御山全体の寺院の本堂にあたり、最初に見える御堂である。

実際にスケッチをしたと思われる場所へ行ってみると、根本中堂全体が入り、さらに背景まで入れようとすると、かなり奥の方まで下がらないとすべて収めることはできないということが分かった。信仰の中心にある本堂を、まずは描きたかったことがうかがえる。



提供：平山郁夫シルクロード美術館

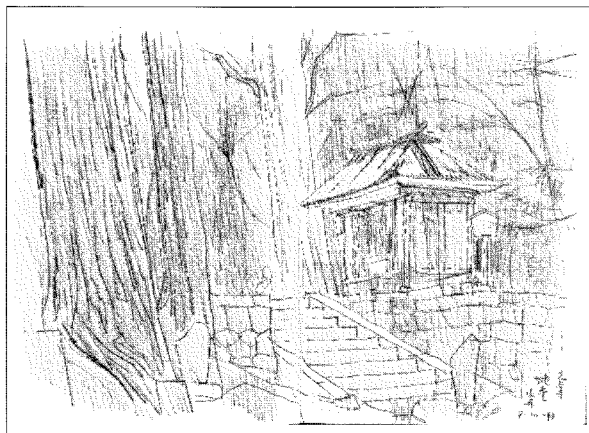
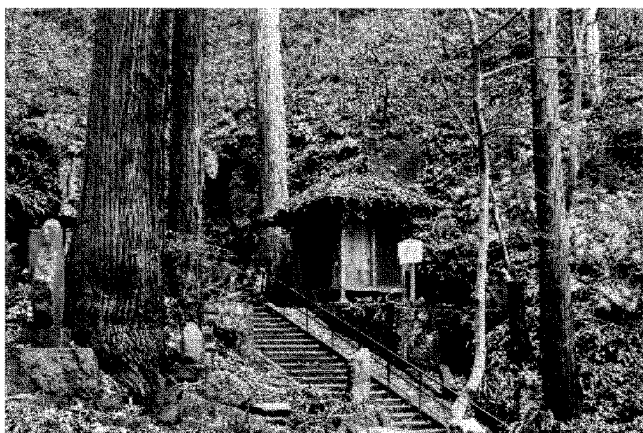


「立石寺 国宝 根本中堂 山寺山形」  
スケッチと郁夫ポイント

山寺2つ目のスケッチは、奥之院までの階段の途中にある「姥堂」である。姥堂とは、ここから下は地獄、ここから上が極楽という浄土■で、そばにある岩清水で体を清め、新しい着物に着替えて極楽に登り、古い衣服は堂内の奪衣婆に奉納するのである。1つひとつ石段を上ることによって欲望や汚れを消滅させ、明

るく正しい人間になろうというものだという。

このスケッチは、普通は人が入らない石塔がたくさん並んでいるところから描かれている。極楽と地獄の境目となるこの場所は山寺のなかでキーとなると考えたのだろうか。



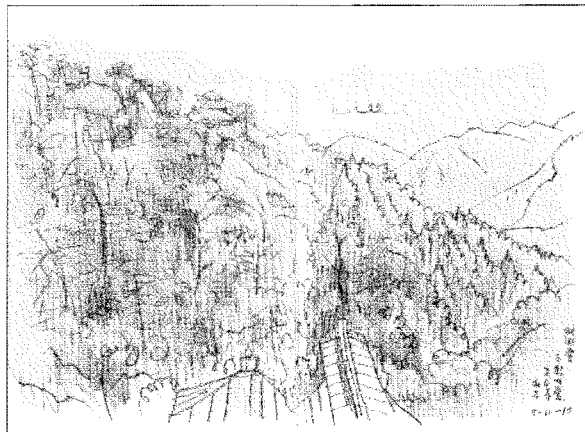
提供：平山郁夫シルクロード美術館



「立石寺 姥堂 山寺」  
スケッチと郁夫ポイント

次は「釈迦堂と開山堂」である。姥堂からさらに階段を上っていくと見えてくるのが開山堂である。奥之院までのびる階段からは少し脇にそれたところにある。開山堂とは、慈覚大師の御堂のことで、その対岸にあるのが釈迦堂である。こちらは残念ながら行くことができない。

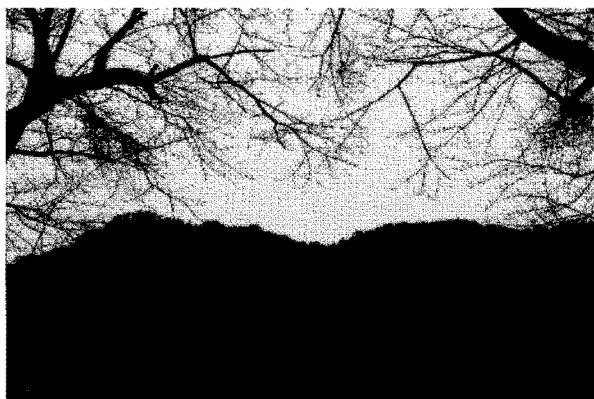
スケッチと同じように写真を撮ろうと思うと、立ち入り禁止のところから撮らなければならない。それに欄干が映り込んでしまう。開山堂は一部屋根が映っているのみである。それでも平山画伯は釈迦堂を描きかけたのだろうか。しかしこのスケッチは素描作品にはなっていない。



提供：平山郁夫シルクロード美術館



「釈迦堂と開山堂 立石寺山寺」  
スケッチと郁夫ポイント



山寺のスケッチで素描作品になったのは、山寺の全景を反対側から描いたものである。スケッチをしたであろう場所は取材時、立入禁止になっていた。この場所に立つとふもとの景色も視界に入るが、平山画伯はふもとの観光地の風景や鉄道はあえて視界から外している。あくまで描きたかったのは仏教の聖地としての山寺だったということがうかがえる。



「立石寺 山寺山形市」  
スケッチと郁夫ポイント

提供：平山郁夫シルクロード美術館

## 慈恩寺 —山形県寒河江市—

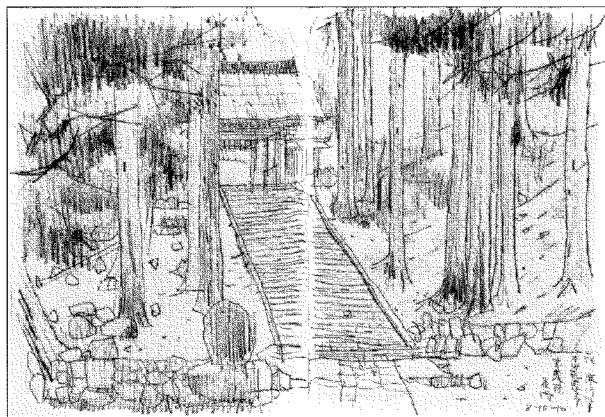
山寺でスケッチをしたその足で、平山画伯は寒河江市にある慈恩寺へ足を運んでいる。慈恩寺は奈良時代、聖武天皇の勅命により建立された。江戸時代に寺領二万八千石は東北随一であり、境内には本堂、山門、薬師堂、三重塔などが立ち並んでいる。仏教信仰のあり方を知るうえで極めて重要であり、平安・鎌倉の佛像群は仏教美術の至宝として重要文化財の指定をうけている。



慈恩寺本堂

立派な建造物が立ち並ぶなか、平山画伯がスケッチの場所として選んだのは、奥にひっそりと佇む「宝蔵院表門」であった。慈恩寺は三か院48坊からなる一山組織の寺院であった。宝蔵院はその一つであり、門は

室町時代の様式のとても古いものである。そこに目を向けた平山画伯は、歴史に対する造詣が深かったことがうかがえる。



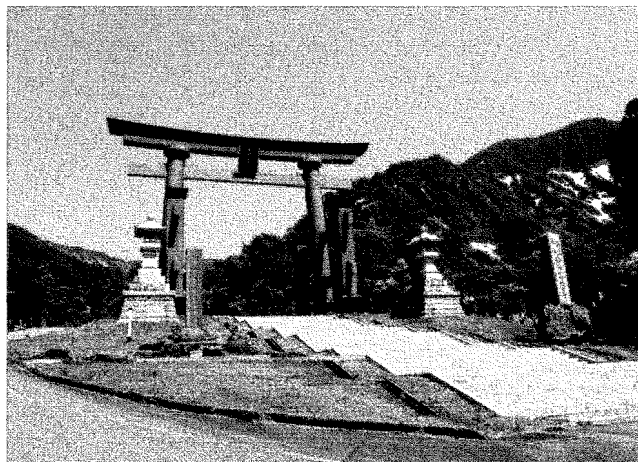
提供：平山郁夫シルクロード美術館



「慈恩寺宝蔵院表門」  
スケッチと郁夫ポイント

## 湯殿山 一山形県鶴岡市一

翌10月11日、次は鶴岡市湯殿山へ訪れる。出羽三山（羽黒山、月山、湯殿山）のひとつである湯殿山は、明治時代までは神仏習合の権現を祀る修験道の山であった。標高1504m。月山に連なる丘陵で、中腹に「出羽三山奥の院」といわれる湯殿山神社がある。湯殿山のご神体は、古くから「語るなかれ、聞くなかれ」とされ、湯殿山で見聞きしてきたことは決して口外してはいけないとされている。『奥の細道』では松尾芭蕉も、「語らぬ湯殿にぬらす袂かな」と句を詠むにとどめている。湯殿山では2か所でスケッチをし、そのうち一つが素描作品になっている。



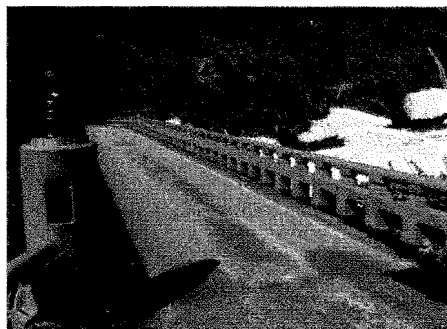
湯殿山 鳥居

まず一つめが「月山 湯殿山 姥ヶ岳」である。鳥居から本宮までの途中にある梵字橋の上から描いたもの

と思われる。雪溪で覆われているため確定はできないが山の稜線がスケッチと近いように見える。

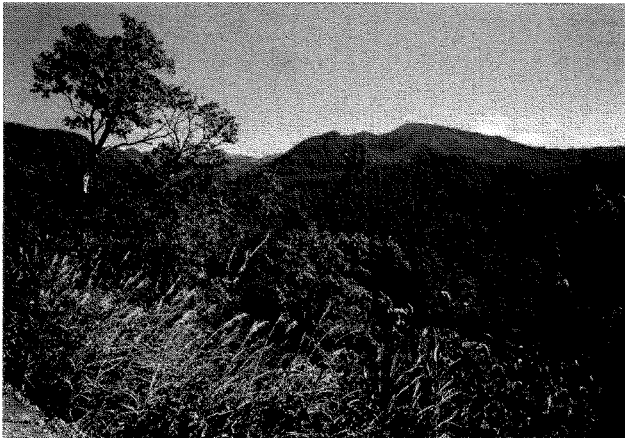


提供：平山郁夫シルクロード美術館



「月山 湯殿山 姥ヶ岳」  
スケッチと郁夫ポイント

そして湯殿山で素描作品になったのが「湯殿山 仙人岳」である。これまでの“郁夫ポイント”から見て、ご神体に近い位置で描いたのだろうと想定し、湯殿山神社を参拝したが、それらしいところはなかった。出羽の古道「六十里越街道」沿いに仙人岳を描いたポイントがあるものと思われるが特定には至らなかった。



「湯殿山 仙人岳」  
スケッチと郁夫ポイント(絵はがき)

「六十里越街道」は日本海側庄内地方と内陸を結び1200年前に開かれたと伝えられている。多くの行者や旅人が行き交い、沿道には今も時代の名残をとどめ、多くの史跡が残っている。湯殿山では写真撮影も禁止されていたため、平山画伯もあえて遠くから描いたのかもしれない。



提供：平山郁夫シルクロード美術館

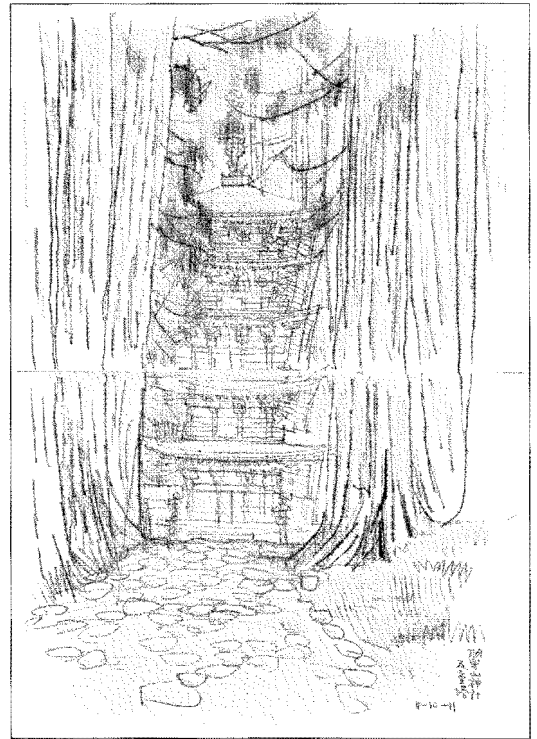
## 羽黒山 ー山形県鶴岡市ー

湯殿山へ立ち寄った後、平山画伯は羽黒山へも足運んでいる。羽黒山は約1400年前、崇峻天皇の皇子である能除仙が開いたとされている。会津や平泉とならび東北の仏教文化の中心にあった羽黒山。そのため数多くの文化財があり、平山画伯も描いた五重塔は国宝に指定されている。湯殿山や月山は冬期の参拝や祭典を行うことができないため、三山の祭典はすべて羽黒山山頂にある三神合祭殿で行われる。古くは本殿、本堂、本社などとも称され、羽黒修験の根本道場でもあった。



羽黒山神社 三神合祭殿

羽黒参道一の坂上り■の杉並木の中にたたずむ五重塔は、国宝にも指定され東北最古の塔とも言われる。平山画伯は羽黒山の定番を描いたのであろう。



提供：平山郁夫シルクロード美術館

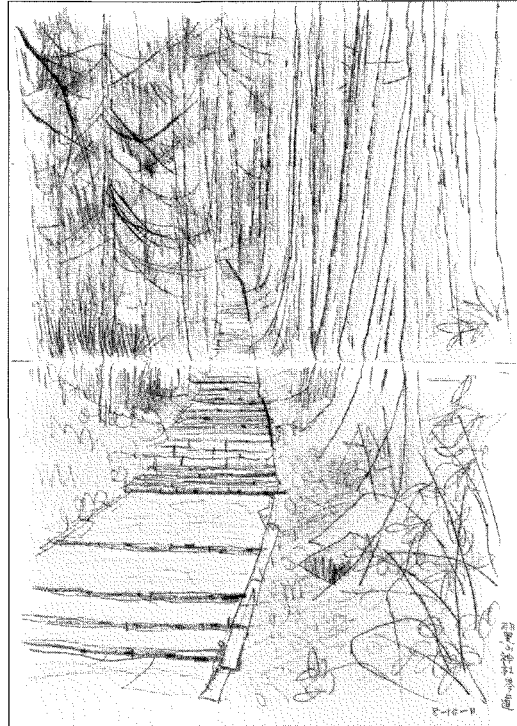
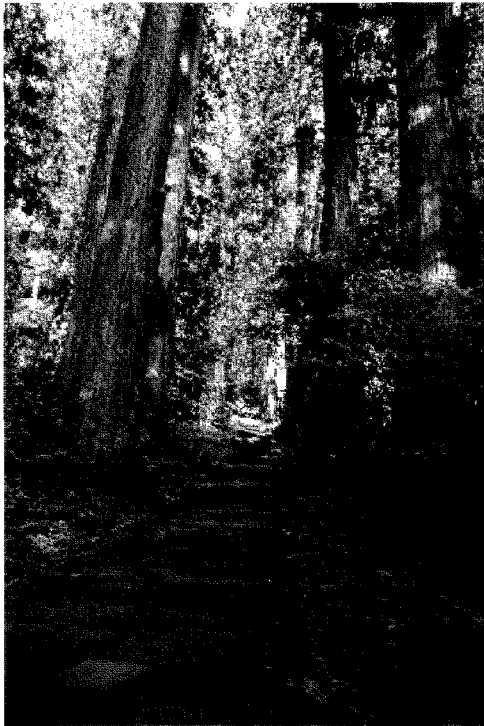


「羽黒山神社 五重塔 山形」  
スケッチと郁夫ポイント



羽黒山もうひとつのスケッチは羽黒山神社の参道を描いたものである。五重塔から本殿へと上がる参道の途中でスケッチをしている。現在同じ場所に立ってみ

ると、「国宝羽黒山五重塔」という看板が見えるのだが、スケッチには描かれていない。平山画伯がスケッチをした当時はまだ看板がなかったのか。



提供：平山郁夫シルクロード美術館

「羽黒山神社参道」  
スケッチと郁夫ポイント



## 鹽竈神社 —宮城県塩釜市—

山形へスケッチ旅行に訪れてから約半年後、今度は宮城県にスケッチ旅行に来ている。最初に訪れたのが宮城県塩釜市にある鹽竈神社である。鹽竈神社は古くから東北鎮護・陸奥国一之宮として、朝廷をはじめ庶民の崇敬を集めてきた。3つの本殿で構成される特殊な構造となっている。平成14（2002）年12月に本殿、拝殿、唐門、回廊、楼門など14棟と鳥居1基が国の重要文化財に指定された。唐門を入り、正面に左右宮があり、左右宮の右手に別宮がある。別宮には、主祭神である鹽土老翁神（しおつちおじのかみ）が祀られている。別宮の別とは、特別な社という意味であり、塩の神、安産の神として庶民の信仰を集めたという。

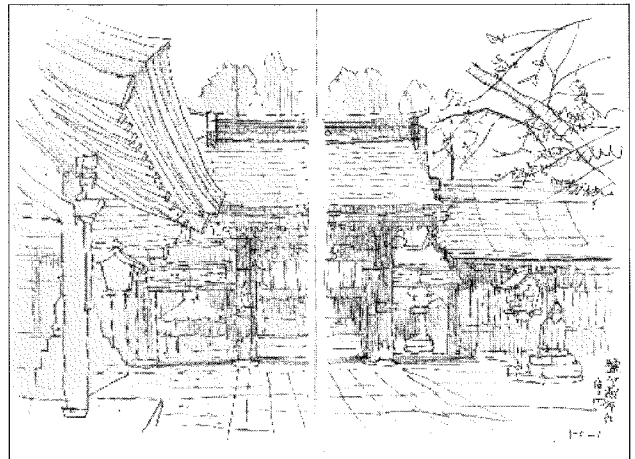
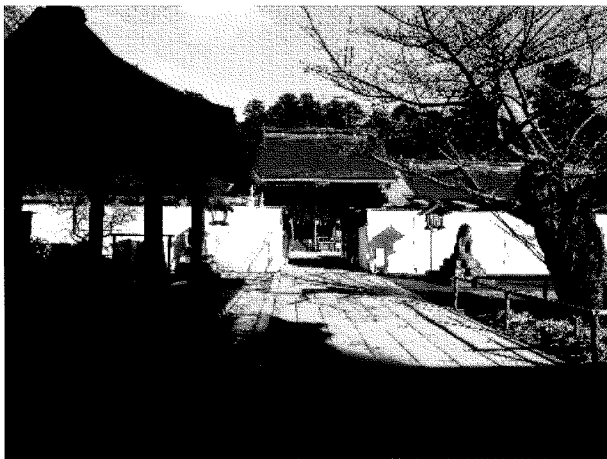
平山画伯は平成9（1997）年5月1日に訪れている。ここでは2ヶ所でスケッチをし、うち1つが素描作品となっている。



鹽竈神社 本殿

まず1つめが「鹽竈神社 唐門」である。鹽竈神社は三本殿で構成される特殊な構造であるが、三本殿を一度に描けるポイントはない。そこで三本殿の入り口で

ある唐門を描いたのだろうか。取材時は文化財修理が施されており、現在は鮮やかなうるしの色が復元されている。



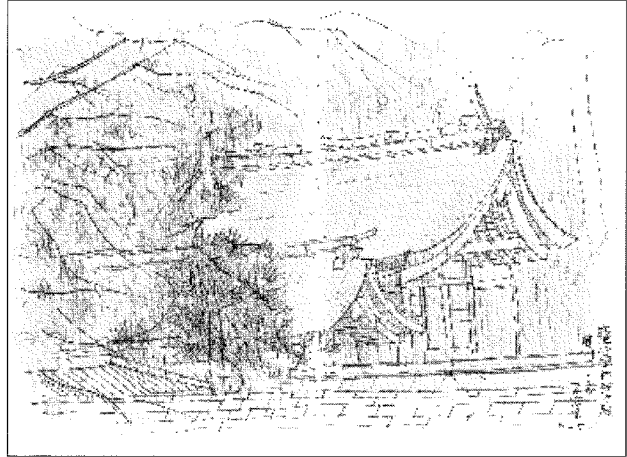
提供：平山郁夫シルクロード美術館



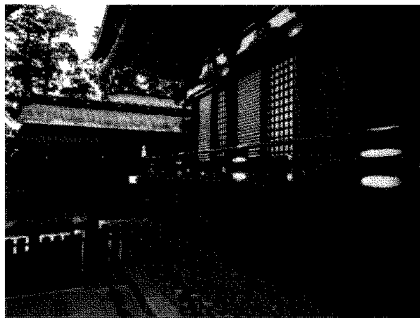
「鹽竈神社 唐門」  
スケッチと郁夫ポイント

素描作品となったのが「鹽竈神社本殿 奥州一ノ宮」とする本殿を描いた作品である。この作品からは平山画伯の本殿に対する強いこだわりを見ることができる。本殿は信仰の中心にあるが、鹽竈神社では本殿を

見られる場所は別宮の脇しかない。このスケッチは別宮の上から描かれたものと思われるが、それでもきちんと見えない。そのため、平山画伯は実際の視点よりも若干高く描いたのであろう。



提供：平山郁夫シルクロード美術館

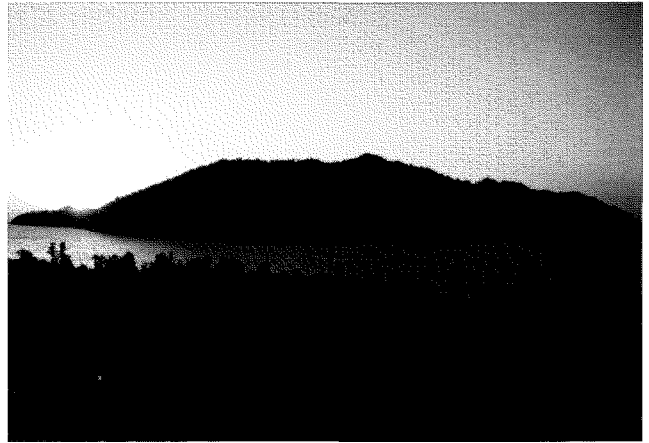


「鹽竈神社本殿 奥州一之宮 宮城県」  
スケッチと郁夫ポイント

## 金華山 ー宮城県石巻市ー

「奥の細道」シリーズ最後となるのが宮城県石巻市牡鹿半島の先にある金華山である。平山画伯は鹽竈神社を訪れたその足で平成9（1997）年5月1日、2日に牡鹿半島・金華山へも訪れている。金華山は宮城県東部に位置する牡鹿半島の東南端にあり、古代より海上交通や漁業の重要な目印となってきた。

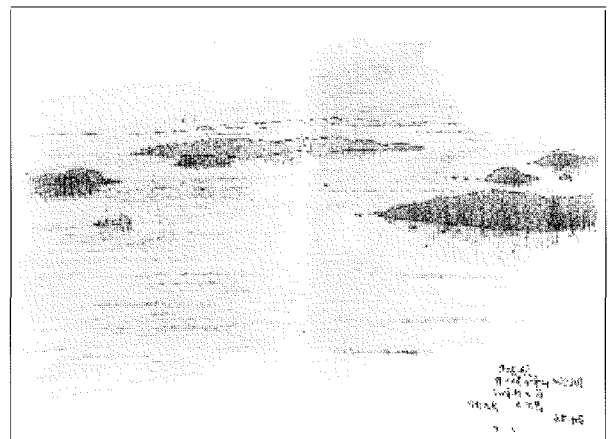
弁財天を守護神とし、弁財天の使者である蛇(巳)は神使として竜神信仰とあわせて毎年5月の初巳大祭には、初巳大祭本祭や神輿渡御が行われる。また、古くより金華山講が組織され、宮城県内だけでなく、隣県にも金華山信仰が深く根付いている。さらに3年続けて参詣すると一生お金に困らないという言い伝えもあり、現在でも多くの参詣客が金華山を訪れる。



金華山

平山画伯が牡鹿半島に来てまず描いたのが、御番所公園から見える網地島・田代島である。地域の人たち

がいつも見ている風景を夕日とともに描いた。しかし仏教の聖地としては作品として取り上げられなかった。



提供：平山郁夫シルクロード美術館



「南三陸国定公園御番所公園 網地島 田代島」  
スケッチと都夫ポイント

その次の日の早朝に描いたのが「金華山<sup>ちやうやう</sup>の朝陽」である。御番所公園は金華山の対岸にあり、金華山の奥から昇る朝陽をスケッチブック数ページにわたり、少しずつ太陽が昇る様子を時間の経過とともにスケッチをした。平山画伯は松尾芭蕉が『奥の細道』で「こがね花咲」と詠んだことからインスピレーションを受け、

金華山後方から黄金色に輝く朝陽を描いたのであろう。この時期日の出は午前4時半頃であり、とても寒かったのか近くにストーブを置き、厚手のコートを着てスケッチしている様子が映像に残っている。ちなみに地元の人によると5月はガスがかかりやすく、作品のようにきれいに朝陽が見えることは滅多にないという。



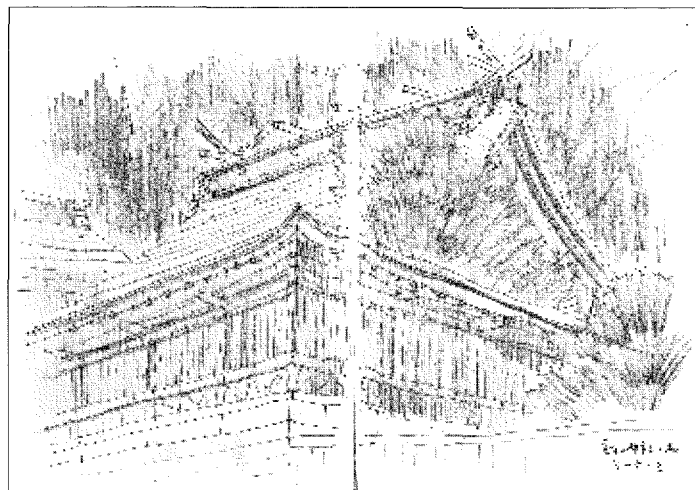
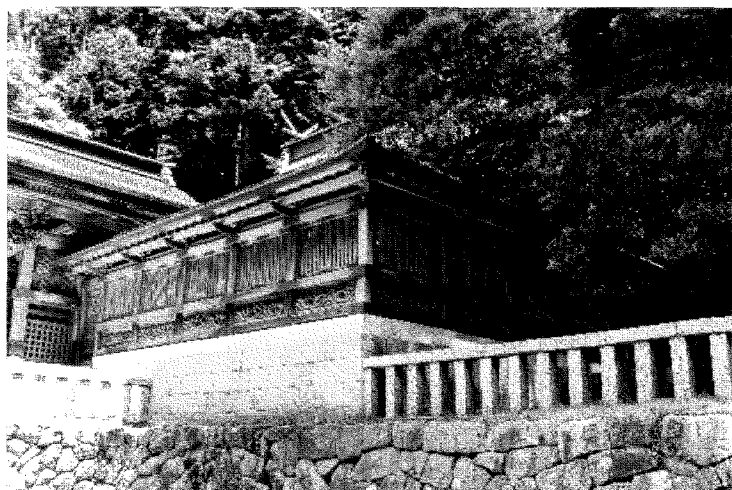
提供：平山郁夫シルクロード美術館



「金華山の朝陽」  
スケッチと郁夫ポイント

金華山から昇る朝陽を描いた後は、実際に金華山へ行き、黄金山神社の本殿を描いている。ここでも平山画伯の本殿を描くことの強いこだわりが感じられる。本殿を描くには、参詣客は普通入らないところまで回り込まなければならない。それなのにわざわざ奥へ回

り込んでまで本殿を描いている。また平山画伯がスケッチ旅行で訪れてから約20年が経過した今、本殿の周りの木々が生き茂りスケッチと同じ光景は見ることができない。



提供：平山郁夫シルクロード美術館



「金華山黄金山神社本殿」  
スケッチと郁夫ポイント

## おわりに

平山画伯は、神社の本殿やご神体が存在する場所など信仰の中心を表す「場所」にこだわって描いている。また、聖地の歴史や由緒などの要素を現在の風景を通じて描こうとしており、歴史に対する造詣の深さを感じられる。さらに寺社の歴史において、一番華やかだった時代を描こうとしている。特に金華山や慈恩寺

からそのことがうかがえる。

今回、2017年に開催した企画展「描かれた神体島—日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」を受けて、取材したものをまとめた。スケッチブックの掲載にあたっては、平山郁夫シルクロード美術館から提供いただいた。

## 「文化財レスキュー展「描かれた神体島」一週間で1,200人あまりが来場」

2017年8月9日から15日までの7日間、石巻市・鮎川の石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館において、企画展「描かれた神体島～日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」展が開催されました。この企画は震災の年から、文化財レスキュー「牡鹿半島・思い出広場」としてこの時期に毎年開催されている展示会で、今回で15回目となります。

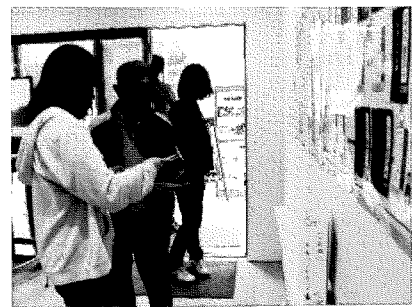
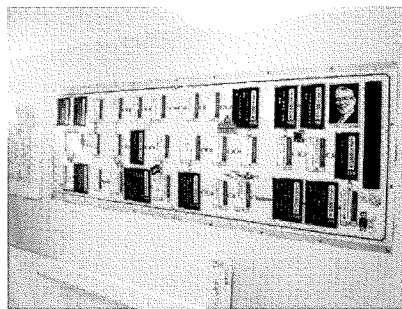
今回の「描かれた神体島～日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」展は、20年前平山郁夫画伯が「奥の細道」シリーズとして、松尾芭蕉の歩いた道をたどりながら東北の風景を描きました。そのシリーズの一つとして平山郁夫画伯は牡鹿半島を訪れ、「金華山の朝陽」「金華山 黄金山神社本殿」の二つの作品を残しています。今回、平山郁夫美術館、平山郁夫シルクロード美術館より金華山の素描作品2点、スケッチブックをお借りし、実現しました。その他にも、地元の方が撮った、平山画伯の鮎川でのスケッチの様子を写した写真や当時の様子を伝えるドキュメンタリー番組などを展示し、平山画伯が訪れた当時の様子を伝えています。

展示に向けて、文学部歴史学科の民俗学専攻の学生で図録の製作をし、図録の構成からデザイン、編集に至るまで学生たちで行いました。図録では珍しい縦書きにしたり、「和」の感じを出したり、作品はページいっぱいに掲載し色味も忠実に出るようになど工夫をしました。

また図録のために金華山へ行き、約20年前平山画伯が訪れた場所は現在どのようになっているのかなど取材にも行きました。完成した図録はとても好評で多くの方に手に取ってもらうことができました。

会期中は天気に恵まれず雨続きでしたが、7日間に来場者は1200人を越え地元の方、お盆で帰省した方々など多くの人に企画展を見ていただくことができました。改めまして感謝申し上げます。

石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館での企画展終了後は、会場を東北学院大学博物館に移し、2017年9月28日（木）まで同企画展「描かれた神体島～日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」」を開催しました。



企画展「描かれた神体島～日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」展の様子

「懐古録 一 鮎川を訪れた巨匠 一」

懐古録 一 鮎川を訪れた巨匠 一

平山郁夫が鮎川を訪れた当時の様子を知る、鮎川在任の鹿井清介さんとその奥さん、お二人とお話を伺うことができました。インタビュー当日は、学生四人で伺っていたが、日曜日にも関わらず、笑顔で迎えてくれました。

訪問して最初に、鹿井さんが録画していた平山郁夫が鮎川に訪れた際の様子を映したテレビ番組を見せてもらいました。また同時に、鹿井さんの趣味が写真撮影であることから、鹿井さんが撮っていた平山郁夫の当時の写真を見ながら、お話を聞かせももらいました。



平山郁夫の観地島スケッチ時の様子(鹿井さん撮影)

学生 「では改めて今日はよろしく願います。さそくですが、お二人が知っている平山さんが鮎川に訪問していた当時のこととお聞きしたいのですが、最初に二人がここで平山さんに会われたのか、教えていただきたいです。

鹿井さん 「この日は、おしか御事務所(以降、御事務所)と電話。最初はね、電話をもらったんです。」

学生 「電話ですか？ ちなみにどなたから？」

鹿井さん 「御事務所展覧会の管理人をしていた藤村さんですか。」

鹿井さん 「元々その場所に住んでいたのよ、それで電話で、「平山郁夫画伯が来るから、(御事務所)において、って言われたよ。ほら、うちの人が写真撮るでしょ、それで呼んできたのよ。」

学生 「管理人の方とご一緒していたんですか？」

鹿井さん 「「御事務所」にお二人でいられたんですか？」

学生 「いや、私の姉も誘って向かったの、三人で御事務所に行っちゃったのよ。」

学生 「お姉さんも一緒にいられたんですか、御事務所に着いたのは何時くらいだったんですか？」

鹿井さん 「何時だったかな？ 網地島のほうを向いて夕日描いていたから、二時か七時くらいだったのかな。」

学生 「夕方だったんですね、写真、鹿井さん撮影を見るに朝日だと思っちゃった。」

鹿井さん 「違う違う！ そうも見えるんだけどね(笑)。行った夕日をスケッチしてたら、平山さん本人に「写真撮ってもいいですか」と聞いてみたんだよ。そしたら「いいよ」と、言ってくれてね。」

学生 「へえ！ 少し音声が聞かれる方もいらすと聞きますが、お優しい方だったんですね、その時平山さんはどちらで描いていたんですか？」

鹿井さん 「話せばその言ひらいたんだけどね、確か、外で描いたね。今は無くっちゃったんだけど、前はね、展望台ももちろん建物だったんだ。その建物の前にビーターと毛布を掛けて、椅子に座って、スケッチしてたんだよ。」

学生 「じゃあそれを、平山さんの隣から見させていたってんですか？」

鹿井さん 「いや、平山さんの真後ろに物置部屋みたいにならうて部屋があつてね、その部屋から窓越しに写真を撮らせてもらったり、見学させていたんだよ。(笑)」

学生 「ちなみにその時、鹿井さんたち以外にも平山さんを見に来た方はいらつしたんですか？」

鹿井さん 「いや、(僕)の人は僕らが行ったんだから四人(藤村さんを含めて)建物の中からスケッチしているところを覗いてたの。」

学生 「え？ 鹿井さん方だけだったんですか？」

鹿井さん 「そうですね、あとは平山さんの付き人が一人と、テレビ局(冒頭の番組)のカメラマンが二人くらいしかその場には居なかったよ。」

学生 「どちらかというと、お忍びのような感じだったんですか？」

鹿井さん 「私たちが行ったときは、そんな感じだったね。」

鹿井さん 「藤村さんと私たちに、連絡してなかったみたいだね。」

学生 「そうですね、平山さんはどのくらいの時間までスケッチされていたかわかりますか？」

鹿井さん 「うん、そんなに分らないな。」

鹿井さん 「私たちが帰る時間くらいしかわかんない。」

学生 「そうですね、だからその日に私たちは、平山さんが帰った。」



おしか御事務所公展展望台(インクビュー-時間影)

学生 「なほどじやあ、山さんは網地島の風景を描いた次の日、金華山の朝陽のスケッチを描いてくれたんですか？」

鹿井さん 「多少そうじゃないかな。」

学生 「なるほど、貴重なお話を聞かせいただきありがとうございます、ありがとうございました。」

インタビュー後、鹿井さんと一緒に、平山郁夫が実際にスケッチしていた「おしか御事務所」にきました。当時の展望台は震災後に取り壊され、形は変わりましたが、また平山郁夫が「金華山の朝陽」のスケッチ時に使用していたログハウスは、現在では取り壊され、その跡地はウッドデッキに変わっていました。

「おしか御事務所」は、金華山や網地島、牡鹿半島を望める景観になっており、実際に訪れたことよって、平山郁夫が当時スケッチしていた際の様子を鮮明に思い浮かべることができました。



鹿井さん宅にてインタビューの様子



# 実績 RESULT

## 東北学院大学博物館入館者数一覧 2017年 ( )内は前年比

月	開館日数	有料入館者数	無料入館者数	小計	開館からの延べ人数
4	24	2	116	118	12,068
5	24	17	166	183	12,251
6	26	28	442	470	12,721
7	25	16	186	202	12,923
8	20	8	35	43	12,966
9	23	20	204	224	13,190
10	26	6	254	260	13,450
11	24	14	83	97	13,547
12	22	5	113	118	13,665
1	23	7	3	10	13,675
2	20	11	14	25	13,700
3	20	5	87	92	13,792
合計	277 (-5)	139 (-1)	1,703 (-190)	1,842 (-191)	

## 施設見学の中・高校一覧

	学校名	月日	人数
1	仙台高校2年生	4月27日(木)	100
2	志津川中学校2年生	5月11日(木)	5
3	相馬高校1年生	6月1日(木)	80
4	九里学園高校	6月9日(金)	12
5	北上翔南高校	6月13日(火)	35
6	亙理高校1年生	7月10日(月)	42
7	福島成蹊高校1年生	7月13日(木)	40
8	岩出山高校1年生	7月13日(木)	21
9	新庄東高校1,2年生	7月14日(金)	54
10	向山高校	7月27日(木)	4
11	保原高校2年生	8月4日(金)	23
12	会津北嶺高校2年生	9月7日(木)	80
13	郡山女子大学附属高校2年生	9月13日(水)	90
14	向山高校	9月13日(水)	3
15	築館高校1年生	10月18日(水)	18
16	花巻東高校	10月25日(水)	55
17	神町中学校2年生	10月25日(水)	43
18	広瀬高校1年生	11月2日(木)	42
19	最上中学校3年生	11月9日(木)	16
20	八向中学校3年生	11月10日(金)	20
21	山本学園高校	11月20日(月)	10
22	村田高校	12月8日(金)	18
23	松島高校	12月11日(月)	42
24	山形学院高校	12月11日(月)	22
	(+3)	875名(-261)	

## 無料開館日入館者数

1	創立記念日	5月15日(月)	0名
2	学部オープンキャンパス	6月24日(土)	226名(-9)
3	大学祭	10月13日(金)~15日(日)	124名(-13)
4	東北文化の日	10月28日(土)	5名
5	冬のオープンキャンパス	12月2日(土)	19名
6	公開クリスマス	12月15日(金)	1名
7	卒業式	3月26日(月)	0名

## 授業等での博物館利用人数

月	授業	人数	研究会	人数	資料整理	人数	利用回数	総人数
4	5	80					5	80
5	6	67					6	67
6	10	144					10	144
7	3	44					3	44
8	0	0					0	0
9	10	126					10	126
10	10	150					10	150
11	12	131					12	131
12	6	56					6	56
1	4	55					4	55
2	0	0					0	0
3	0	0					0	0
計	66 (+1)	853 (+119)	0	0	0	0	66	853

## 団体見学

- 6月5日(月)  
せんだい豊齡学園 47名
  - 6月16日(金)  
保原高校父母 25名
  - 12月7日(木)  
豊齡学園 12名
  - 3月30日(金)  
学都仙台バスツアー 64名
- 見学者数 148名

## 東北学院大学博物館運営委員会の開催

東北学院大学博物館運営委員会は、第一回を平成29年5月25日（木）（5号館第4会議室）、第二回を平成29年11月16日（木）（5号館第3会議室）に開催した。

第一回委員会の議題は、平成29年度事業計画（案）について・平成29年度学芸研究員採用（案）について・平成29年度無料開館日（案）について等であった。第二回委員会の議題は、平成30年度事業計画（案）について・平成30年度予算（案）について等であった。

平成29年度博物館運営委員会委員名簿

博物館長	辻 秀人（文学部歴史学科教授）
文学部長	村野井 仁（文学部英文学科教授）
学務部長	加藤 健二（教養学部人間科学科教授）
図書館長	佐藤 義則（文学部歴史学科教授）
総務部長	菊地 祐一
歴史学科長	楠 義彦（文学部歴史学科教授）
経済学部	仁昌寺正一（経済学部経済学科教授）
工学部	櫻井 一弥（工学部環境建設工学科教授）
教養学部	津上 誠（教養学部言語文化学科教授）

## 職員紹介

館長	辻 秀人	文学部歴史学科教授
学芸員	加藤 幸治	文学部歴史学科教授
事務職員	及川 純一	研究機関事務課係長
嘱託職員	土岐山 武	
学芸研究員	遠藤 健悟	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士後期課程
	佐藤 由浩	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	相川ひとみ	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	鈴木 春菜	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	真柄 侑	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐藤耕太郎	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐藤 匠	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	鈴木 舞香	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程

## 交通案内



- 地下鉄「五橋駅」下車、  
愛宕上杉通を南方向に徒歩5分

# 施設概要

東北学院大学博物館は、50年の歴史を持つ文学部歴史学科の調査研究の最前線を一般に紹介するとともに、博物館学芸員養成の舞台として2009年にオープンした。杜の都仙台のメインストリートのひとつ愛宕上杉通りに面しており、市民に親しまれる大学博物館を目指している。

展示の最大の特徴は、教員と学生が寝食をともにして行うフィールドワークや、実物資料を扱いながら歴史を読み解く講読などで明らかになった内容を、学生たちの手で展示していることである。解説パネルやパンフレットはもちろん、企画の構成や資料の展示にいたるまで、すべての主役は大学生である。考古遺物から、民具、中世史の板碑、近世の古文書、民俗芸能や祭の映像記録など、展示されている資料はどれも学生たちの驚きと発見の賜物である。

墨書人面土器とおしらさまは、東北学院大学博物館が所蔵している東北の名品である。墨書人面土器は、土器の外面に人の顔が描かれたもので、古代の人々が穢れを祓う目的で水辺に流したものと考えられている。本資料は、そのなかでも端正なつくりであり、高校の日本史の参考図書にも掲載されたことがある。出土地の市川橋遺跡は、律令国家による東北支配の拠点である国府多賀城跡の南面に広がる遺跡である。

民俗資料の名品であるおしらさまは、家の神、蚕の神、農業の神、馬の神として信仰されてきた祭具だが、

当館が収蔵するおしらさまは、民間宗教者でオガミサマと呼ばれる巫女が祭具として携帯したものとされている。本資料は、岩手県一関市川崎町の大乗寺に保管されていた二体一対のおしらさまで、慶長11年(1606)の紀年銘の入った大変古いものである。

ホンモノに触れることでしかできない学びから、学生たちは自らの研究テーマを見出していく。こうした東北地方の歴史研究の資料を展示するとともに、東日本大震災の文化財レスキュー活動にも積極的に取り組み、大学博物館として学生の学びの場を提供している。

郵便番号：980-8511

住 所：宮城県仙台市青葉区上樋一丁目3-1

電話番号：022-264-6920 FAX：022-264-6917

休 館 日：日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

開館時間：午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

入 館 料：一般200円(減免措置あり)

※学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・園児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームカミング・デー等の館長が定める行事日は無料。未就学児、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。



## 平成29年度(2017) 東北学院大学博物館年報 vol.9

編 集 東北学院大学博物館  
発行日 平成31年3月31日  
印 刷 株式会社ユーメディア

# モノを学ぶ、モノを活かす

東北学院大学博物館は、本学における最先端の研究成果を広く社会に伝えることを目的とし、二十九年十一月に開館しました。

当館が当面対象とする分野は、歴史学・考古学・民俗学で、貴重な文献や考古・民俗資料を数多く展示しています。

また、大学で閉鎖されている博物館館実習等における学びの場として活用されています。これらの実習では、教員・学芸員の指導のもとで館蔵資料を実際に扱いながら、資料の調査・保存・展示方法を学ぶなど、学芸員の実践的な技術鍛錬が行われています。

東北学院大学博物館

Tohoku Gakuin University Museum



TOHOKU GAKUIN  
UNIVERSITY

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1  
TEL 022-264-6920 FAX 022-264-6917